

令和元年6月22日現在

機関番号：32506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02695

研究課題名(和文)上ソルブ語における文の閉じ方と「文らしさ」

研究課題名(英文) Sentence-closing patterns and "sentenceness" in Upper Sorbian

研究代表者

笹原 健 (Sasahara, Ken)

麗澤大学・外国語学部・講師

研究者番号：10438921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：上ソルブ語では、主語以外の必要十分な文要素を明示していれば、「文らしさ」が満たされ、文が成立する。しかし、文が完結したあとに何らかの文要素が現れることがある。このような要素の出現はまれではない。これらの要素は、(a)話者の態度を表す要素と(b)話者の態度を表さない要素に分類できる。(a)の典型例は付加疑問であり、(b)の典型例は情報の付け足しや言い換えである。上ソルブ語と上ソルブ語話者のもう一つの母語であるドイツ語を対照してみると、両言語のあいだに類似性が見られる。これは長年にわたる言語接触によるものと考えられるが、人間言語一般に該当する可能性もある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上ソルブ語のある発話が文として成立するか否かは「文らしさ」を満たしているかどうかによることを提案した。この基準は言語によって異なる可能性があるが、言語一般について考えるべき観点である。また、上ソルブ語のように少数民族言語の文法研究においては、当該の文法現象のみに着目するだけでは問題の解明に到達できない場合がある。本研究では、ソルブ人のたどってきた歴史ならびに民族アイデンティティを含めて考察することを実践した。このような視点は少数民族言語研究の発展に寄与するものである。

研究成果の概要(英文)：To regard an utterance of a speaker as a sentence, the hearer must understand that the utterance fulfills "sentenceness", which the author posits in his framework of the research. In Upper Sorbian (Indo-European, Slavonic branch, spoken in Germany), a sentence is realized if necessary and sufficient sentence elements are shown in it. In this language, some sentence elements appear even after the sentence is completed, i.e., at the post-sentence-final position. To investigate the nature of such elements, the author analyzed those elements. They are classified into modal and non-modal elements. The typical example of the former is tag-question, while the latter typically includes paraphrasing and afterthought. Interestingly, the Upper Sorbian elements at the post-sentence-final position resemble those in German. Sorbian and German people have experienced long linguistic and non-linguistic contact more than 1000 years. This contact might have influenced the resemblance.

研究分野：言語学

キーワード：上ソルブ語 文らしさ 文末表現 言語接触 情報構造

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究課題の対象言語である上ソルブ語(インド・ヨーロッパ語族スラブ語派)には文法によって規定された語順はない。したがって、比較的自由的な語順を有する言語であるといえる。研究代表者はこの研究課題の開始に先がけて、平成25年度から平成27年度まで科学研究費補助金(基盤研究(C))を受けて研究課題「上ソルブ語の語順に関する基礎研究 言語接触と情報構造の観点から枠構造を中心に」(課題番号25370495)に取り組んできた。円滑な言語コミュニケーションが成立するためには、発話された文がどこで終わるかが聞き手に理解されねばならないはずである(むしろ、発話途中で話し手をさえぎることもある)。そのためには、話し手・聞き手双方に「文らしさ」が共有されていなければならない。上ソルブ語の特定の文タイプにおいて好まれて用いられている語順(ドイツ語の枠構造を再現した語順など)が存在する。これらの事象を包括的に記述するためには、文がどのように終わるか、この言語における「文らしさ」とは何であるかを問い直す必要があった。

### 2. 研究の目的

上ソルブ語における語順を記述するのが目標であるが、そもそも自由語順の言語における語順は何を、どこまで、どのように記述すべきかを問うのが本研究の核心である。そのためには、上ソルブ語における「文」とは、どのような単位であるかを明らかにしなければならない。というのも、この言語は必ずしも主語の明示を必要としないからである。文脈によっては、主語以外の要素も明示しなくてもいい場合もある。聞き手にとって文がどこで終わるかがわからなければ、円滑な言語コミュニケーションは成立しにくい。そのため、文が成立する要件として「文らしさ」という概念を立て、それを規定する1つの基準として、文がいかにして閉じられるのか、すなわち文末に現れる(あるいは現れやすい)表現の記述を行う。

### 3. 研究の方法

上ソルブ語は統語に関する先行研究に乏しい。上ソルブ語使用地域に赴いて一次資料となる話しことばの音声資料を収集する現地調査を実施する。多人数が集まる場で上ソルブ語の自然発話の音声ならびに調査協力者との1対1での面談調査での音声を録音し、分析する。その際には、文末音声の抑揚や文のタイプ、統語構造などの言語的要因ならびに視線や身ぶりなどの非言語的要因を調査し、この言語の文の閉じ方を明らかにする(ただし、非言語的要因は本研究課題実施期間では十分な資料を得ることができなかった)。そしてこれらの要因の間にどのような相関関係が見られるかを考察することで、この言語における「文らしさ」を問い直していく。以上の手続きを経て、上ソルブ語の文らしさを明らかにし、将来的にはこの言語の情報構造の解明に努める。

### 4. 研究成果

#### (1) 文が成立するための条件

上ソルブ語では、主語の明示は必ずしも必要でない。Pomoc!「助けて!」(Pomocは名詞)のような一語文を除けば、文にはふつう、動詞が含まれる。使われている動詞が目的語を要求する場合、文脈から容易に復元できる目的語があれば、その目的語を明示しなくてもよい。それ以外の目的語は明示する必要がある。この要件を満たせば、文が成立するとみなすことができる。しかし、文が完結したあとに、何らかの文要素が現れることがある。このような要素の出現はまれではない。

#### (2) 文が完結したあとに現れる要素

文が完結したあとに現れる要素は、(a)話者の態度を表す要素と(b)話者の態度を表さない要素に分類できる。(a)の典型例は付加疑問である。上ソルブ語では、付加疑問表現(abo, kak など)や間投詞(ah, he など)が用いられる。(b)の典型例は情報の付け足し。上ソルブ語では関係節や、直前に述べられた名詞や動詞の繰り返しや別の語句による言い換えなどが用いられる。この際に働いていると考えられるのが「文らしさ」である。もし、話し手が自分の頭に思い浮かんだ順番に文を述べているならば、言い換えをするときに全文を繰り返す必要はないはずである。つまり、最小限の繰り返しですむだろう。

#### (3) 上ソルブ語とドイツ語の類似性

上ソルブ語において文が完結したあとに現れる要素については、ドイツ語でも似た傾向が認められる。スラブ語派である上ソルブ語とゲルマン語派であるドイツ語を双方向に逐語訳しても、ほとんどの場合、語派が違っていても互いに文法的な文として成立する。ただし、この事象は人間言語一般にあてはまる可能性も排除できない。

この事象を理解するためには、民族史に目を向けることが有用である。上ソルブ語話者はドイツに居住し、ドイツ語との二言語使用者である。歴史的には、11世紀から上ソルブ人とドイツ人との言語的・文化的・経済的接触がある。上ソルブ語には、1000年以上にわたるドイツ語との接触を経て、語派を超えた地域的類似性と思われる文法現象がみられる。その諸相は、語彙や音韻体系、語順と広範囲にわたる。

上ソルブ語とドイツ語の関係性については、上ソルブ人の民族アイデンティティも考慮する必

要がある。Šatava (2015:35)の言を借りれば、「多くの上ソルブ人にとって、自らの民族アイデンティティについて、ソルブ人とドイツ人の境界線を引くことがきわめて難しい」。その一方で、ソルブ人は自民族のフォークロアを「他のヨーロッパの少数民族よりも保存している」(Dołowy-Rybińska 2015)。  
このことから、少数民族言語の文法研究には民族史や民族アイデンティティといった、非言語的要因を考察に含める必要がある。

#### 引用文献

Dołowy-Rybińska, Nicole. 2015 "Minderheitskulturen zwischen Folklore und Modernität". *Lětopis* 62 (1). 38-55.  
Šatava, Leoš. 2015. "Sorbian national strivings between primordialism and (post)modernism". *Lětopis* 62 (1). 32-37.

#### 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 4 件)

SASAHARA, Ken "Sentence closing pattern in Upper Sorbian with contrast to German". The 3rd international conference titled Various Dimensions of Contrastive Studies (V-DOCS 2016) (国際学会) 2016年10月24日~25日 The University of Silesia, Poland.

SASAHARA, Ken "Modal expressions as sentence-closing marker in Upper Sorbian". 2016 International Symposium on Verbs, Clauses and Constructions (国際学会) 2016年10月26日~28日 University of La Rioja, Spain.

SASAHARA, Ken "Post-sentence-final modal expression in Upper Sorbian and German". The 8th edition of the International Contrastive Linguistics Conference (ICLC8) (国際学会) 2017年5月25日~28日 The University of Athens, Greece.

SASAHARA, Ken "Derivational morpheme denoting male human in Upper Sorbian". Word-Formation Theories III and Typology and Universals in Word-Formation IV Conference (国際学会) 2018年6月27日~30日 The University of Košice, Slovakia.

〔図書〕(計 1 件)

Pilar Guerrero Medina, Roberto Torre Alonso, Raquel Veja Escarza (編) *Verbs, Clauses and Constructions: Functional and Typological Approaches*. Cambridge Scholars Publishings. 2018年. 463.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

なし

#### 6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。